

ポストコロナルの日常を訪ねてーグローバル化、開発とアフリカ周辺社会
ウガンダ海外研修プログラム

【テーマと目標】

「遠い世界」と思われがちなアフリカの現在を身近に知るために、都市での滞在（ホームステイ）、村落での滞在を織り交ぜたプログラム。ウガンダの社会・文化についての事前学習内容には、現地の研修期間に東アフリカ最高峰大学マケレレ大学のウガンダ人教員とウガンダ人学生によるコメントが与えられる。在ウガンダ日本国大使館、青年海外協力隊事務所訪問、NGOの活動現場視察。人々の生活の中で息づく呪術を司る呪術師訪問、難民キャンプ訪問もくみこむ。

【期待される効果・学習目標】

今日のグローバル化のもう一つの面、グローバル化で割をくっている側でもあるサブサハラアフリカを単に「援助対象」や「開発」の遅滞（日本のメディアではその扱が多い）という目で見るのではなく、同時代の人間が暮らす社会・文化という側面からとらえなおすことができる。「難民」といってもステレオタイプ化されたそれではないリアリティを獲得する。「援助対象」ではなく、同時代に生きる地球上の人類として、同伴者としてアフリカ社会を認識する手がかりとなる知見と経験を身につけることをめざす。

【日程】

2017年8月22日から9月5日。

※研修日程は変更することもあります。

【担当（企画・指導・引率）教員】

梅屋潔（国際文化学研究科） umeya@people.kobe-u.ac.jp（研究室：E405）

【募集人数】

5名程度（国際人間科学部／国際文化学部・国際文化学研究科正規生・発達科学部・人間発達環境学研究科）

【経費関係】

自己負担総額約35万円を予想。基準を満たした場合には、選考により、5～6万円の奨学金が支給される。

【研修先での言語】

英語

【準備と流れ】

事前学習の過程で航空券や宿の手配なども教員と相談しつつ参加者の責任で全員で行う。『ウガンダを知るための53章』（明石書店）を入手し精読すること。それを参考にしながらウガンダあるい

は東アフリカの社会・文化についての 20 分ほどのプレゼン（パワーポイント使用）を準備する。
帰国後、プレゼン原稿データ、日記、および報告書を提出すること。

(1) 生活面

- 航空券の手配、宿の手配
- 留学生危機管理サービス（OSSMA）説明会参加、海外旅行保険加入

(2) 学習面

- 事前講義への参加、課題、研究発表の準備
- 参加学生は、マケレレ大学との合同ゼミで学部生 10 分、院生 20 分程度のプレゼンを行なう。テーマについては事前講義時に相談して決定。プレゼンはドイツ語または英語、質疑は日本語を交えることもある。
- 帰国後に報告書を提出

【プログラム内容】

1. 在ウガンダ日本大使館表敬、現地の仕事について説明を受ける。
2. マケレレ大学社会科学部の教員、学生を交えて、当方で準備したプレゼンについて議論。
3. カスピの墓（世界遺産）をはじめとし、ブガンダ王国の墓所を中心とした文化的遺構を、ブガンダ王国のプリンスの案内でツアー。その墓を中心に王国の歴史を学ぶとウガンダの近代史も重なって見えてくる。遺構のそのいくつかは、観光ガイドにも載っていない聖地。
4. 首都カンパラの一般家庭でホームステイ、ウガンダ人と日常の食事を一緒に作り、食べる（主食はバナナなど）。
5. 首都カンパラのマーケット見学（泥棒に注意）。
6. 首都とは対照的な田舎の生活を体験する。サバンナのサファリ体験。電気・ガス・水道無しの田舎暮らし。
7. 現地で活動する NGO のプロジェクトを見学する。
8. 難民キャンプの訪問:ウガンダは古くから牧畜民カリモジョンの牛略奪に悩む近隣民族の難民と 1986 年ムセベニ政権成立後に勃興した反政府軍ゲリラ「神の抵抗軍」の襲撃による難民キャンプ生活が常態化している人々がいる。
9. ナイルの源流を訪ねるボート・クルージング。
10. ナショナル・パークで野生動物を見る背景でその近隣の人々の生活実態を知る。など（予定。昨年の計画を基準に設計。調整の結果変わることがある）。

【今後の予定】

（募集） 平成 29 年 5 月 1 日～5 月 31 日

（選考） 応募者多数の場合、書類選考の他、6 月上旬に行う面接、GPA などを加味して選考する

【単位について】

国際文化学部・国際文化学研究科の学生へ

本海外研修は、国際文化学部・国際文化学研究科の授業の一貫として行います。国際文化学部・国際文

化学研究科の海外研修の修了者には 1 単位が付与されます。研修参加決定者の履修登録は、鶴甲第一キャンパス事務課教務学生係（国際文化研究科教務学生係）にて行います。

なお、本海外研修の履修は CAP に含まれません。

国際人間科学部 1 年生へ

フィールドワーク実習として本海外研修への参加は可能ですが、実践型 GS コースは 2 年次より対象となるため、GSP の単位とすることはできません。

単位認定申請を希望する学生は、学生便覧の「神戸大学国際人間科学部フィールドワーク実習に関する内規」を参照のうえ、海外研修終了後 1 ヶ月以内を目処に、必要書類を鶴甲第一キャンパス事務課教務学生係へ提出してください。

なお、本海外研修の履修は CAP に含まれません。

【奨学金について】

成績等、以下支給対象者の条件を満たす場合、JASSO 海外留学奨学金（5～6 万円）が支給されます。（別途申請要。希望者多数の場合、書類選考があります。）

奨学金支給対象者：

- ・日本国籍を有する者又は日本へ永住が許可されている者
- ・経済的理由により、自費のみでの派遣プログラムへの参加が困難な者
- ・前年度の成績が JASSO の定める成績評価係数 3.00 満点のうち 2.30 以上である者（※下記別表参照）
- ・経済的理由により、自費のみでの派遣プログラムへの参加が困難な者

※JASSO 成績評価係数の算出方法について

JASSO 成績評価係数は神戸大学 GPA の算出方法とは異なります。以下表により「成績評価ポイント」に換算し、計算式にあてはめて算出してください。

成績評価基準					
神戸大学成績評価	秀	優	良	可	不可
JASSO 成績評価ポイント (P)	3	3	2	1	0

計算式

$$\frac{(\text{「評価 P3 の単位数」} \times 3) + (\text{「評価 P2 の単位数」} \times 2) + (\text{「評価 P1 の単位数」} \times 1) + (\text{「評価 P0 の単位数」} \times 0)}{\text{総登録単位数}}$$

総登録単位数

【応募方法】

「参加申込書」をホームページからダウンロードし、「申込要領」を熟読の上、電子ファイルと紙媒体の両方で提出してください。